

環境経営レポート

2022 年度

対象期間（2022 年 4 月～2023 年 3 月）

目 次

1. 事業概要
2. 環境経営方針
3. 環境経営目標とその実績
4. 環境経営計画・実績
5. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
6. コミュニケーション
7. 全体の評価と見直し



環境省

エコアクション21

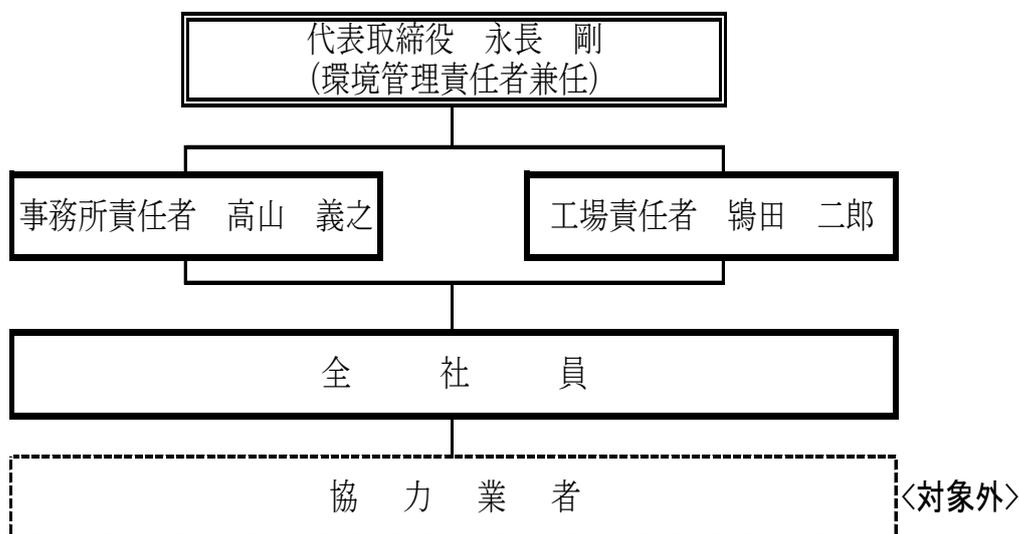
認証番号 0001975

株式会社 大 進

発行日：2023 年 6 月 1 日

1. [事業概要]

- 1) 事業所名 株式会社 大進
- 2) 代表者 代表取締役 永長 剛
- 3) 所在地 神奈川県横浜市港北区樽町 4-6-14
電話 045 (543) 3231
FAX 045 (544) 1676
E-mail dai-shin@mx1.alpha-web.ne.jp
- 4) 事業内容 各種自動制御盤の設計製作
特に空調関係の計装盤等を製作
- 5) 事業規模 従業員 9名
事務所、工場床面積 226 m²
売上高 12,575 万円
- 6) 環境活動組織



- 7) 環境管理責任者 及び担当者 環境管理責任者名 代表取締役 永長 剛
担当者名 高山 義之
- 8) 対象範囲 対象事業所：本社
対象事業活動：自動制御盤の設計・製作

2. 環境経営方針

私達は以下のように環境マネジメントに取り組んで行く事をここに宣言します。

(株)大進は各種自動制御盤の設計、製作において技術力の向上、品質の改善に取り組み、顧客の期待する製品と信頼性を提供することに努めます。また社員一人一人が環境に配慮した設計、製作、営業活動のあらゆる面で環境活動に積極的に取り組み、住みよい社会実現のために地球環境保全活動を推進します。

このような事業活動の中で次のような項目について取り組みます。

- ① 環境負荷の少ない部品等の使用（RoHS 指令適合部品の使用促進）
 - ② 電気、ガス等の省エネルギーを推進し、CO₂の削減をします。
 - ③ 廃棄物の削減を行います。
 - ④ リユース、リサイクルを推進し、グリーン購入の推進を行います。
 - ⑤ 水使用量の削減を行います。
- ・環境保全問題を共有するように、社内、関係各社と協議します。
 - ・社員全員が環境経営に対して積極的かつ継続的に改善に取り組みます。
 - ・環境関連法規等を遵守します。
 - ・この方針は社員全員に周知するとともに一般にも公開します。

制定日 2007年4月2日

改定日 2019年4月1日

株式会社大進

代表取締役 永長 剛

3. [環境経営目標とその実績]

弊社は下記における事業活動において、環境に影響を与えると考えられる項目を明確にする為、負荷や取り組みの自己チェックを行いました。

その結果として、環境目標を『電力使用量の削減』、『ガソリン使用量の削減』、『水使用量の削減』、『廃棄物排出量の削減』、『二酸化炭素排出量の削減』と決定し、負荷の自己チェックの結果より目標設定を行ないました。PRTRにかかわる化学物質の使用はないので、化学物質に関する目標の設定はありません。

また、RoHS 指令適合品・グリーン購入の使用比率を算出し現状を把握しました。

1) 環境負荷の実績

項目	単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度
二酸化炭素排出量 (灯油その他も含)	(kg-co2)	8,724.81	9,177.34	9,772.54
電力使用量	(kwh)	9,517	9,125	10,489
ガソリン使用量	(L)	1,219.00	1,354.08	1,481.20
水使用量	(m ³)	92	104	99
廃棄物排出 (有価物除く)	(kg)	454.0	449.4	342.5
RoHS 指令適合品使用比率	(%)	97 (36/37)	97 (36/37)	97 (36/37)
グリーン購入の使用比率	(%)	38 (¥3,905 ¥102,807)	41 (¥52,217/ ¥126,382)	31 (¥39,926/ ¥127,002)

項目	単位	2017 年度	2018 年度	2019 年度
二酸化炭素排出量 (灯油その他も含)	(kg-co2)	8730.98	9173.55	8,828.72
電力使用量	(kwh)	8,548	9,619	10,180
ガソリン使用量	(L)	1,050.13	1,363.28	1,294.06
水使用量	(m ³)	86	85	88
廃棄物排出 (有価物除く)	(kg)	566.5	607.0	790.0
RoHS 指令適合品使用比率	(%)	95 (35/37)	97 (36/37)	97 (36/37)
グリーン購入の使用比率	(%)	35 (¥49,458 ¥141,005)	37 (¥51,898/ ¥139,071)	52 (¥102,790/ ¥198,284)

※購入電力量の二酸化炭素排出係数 0.455 kg-co2/kwh (2019 年度)

2) 環境経営目標

2017~2019 年度実績平均を基準値として 2020~2022 年度 3 年間の環境経営目標を次のように策定しました。

項目	基準値 (2017-2019 平均)	目標値 (2020-2022 年)
二酸化炭素排出量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 8911.08 (kg-co2)	8902 (kg-co2)
電力使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 9,449(kwh)	9,440.(kwh)
ガソリン使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 1,235.82 (L)	1,235 (L)
水使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 86.3 (m ³)	86 (m ³)
廃棄物排出量 (有価物除く)	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 517 (kg)	517 (kg)
RoHS 指令適合品の 使用促進(自社製品に 関する項目)	RoHS 指令適合品のファイ リング・使用比率の把握 基準値 96%	96%
グリーン購入促進	グリーン商品の購入・購入比率 の把握 基準値 41%	41%

2020~2022 年度実績平均を基準値として 2023~2025 年度 3 年間の環境経営目標を次のように策定しました。

項目	基準値 (2020-2022 平均)	目標値 (2023-2025 年)
二酸化炭素排出量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 9,225 (kg-co2)	9,216 (kg-co2)
電力使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 9,710(kwh)	9,701(kwh)
ガソリン使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 1,351.43 (L)	1,3501 (L)
水使用量	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 98.3 (m ³)	98.24 (m ³)
廃棄物排出量 (有価物除く)	基準値に対する低減率%	0.1%
	基準値 415.3 (kg)	414.9 (kg)
RoHS 指令適合品の 使用促進(自社製品に 関する項目)	RoHS 指令適合品のファイ リング・使用比率の把握 基準値 97%	97%
グリーン購入促進	グリーン商品の購入・購入比率 の把握 基準値 37%	37%

4. [環境経営計画・実績]

4-1. 2022 年度運用期間における実績

購入電力量の二酸化炭素排出係数 0.455 kg-co2/kwh (2019 年度)

項目	単位	2020-2022 年度 目標	2022 年度 実績	2022 年度 達成度
二酸化炭素排出量 (灯油その他も含)	(kg-co2)	8,902	9773	91%
電力使用量	(kwh)	9,440	10,489	90%
ガソリン使用量	(L)	1,235	1,481	83%
水使用量	(m ³)	86	99	87%
廃棄物排出量 (有価物を除く)	(kg)	517	342	151%
RoHS 指令適合品の 使用促進	(%)	96%	97%	101%
グリーン購入促進	(%)	41%	31%	76%

4-2. 環境経営計画 (2022 年度、2023 年度)

1) 電力使用量の削減

実施項目	取り組み結果の評価
工場、事務所の空調温度設定の励行	空調機を適切な温度に設定し、また事務所の窓や工場のシャッターを開放させて換気することで、できるだけ空調機を使用しないように取り組みました。
不要照明の消灯	事務所、工場の照明スイッチに節電を促すステッカーを貼り付け節電の意識を高めています。昼休み時、時間外時の消灯を行いました。今後照明は、消費電力の少ない省エネタイプの蛍光灯の使用も検討しています。
OA 機器の節電 (昼休み時電源切り)	コピー機、複合機、パソコンは、昼休み時に電源切りを実施しました。使用頻度が少ない日は、コピー機等使用后すぐに電源を OFF にしました。
空調機のフィルター清掃	空調機のフィルター清掃の確認シートを作成し、清掃後のチェックを実施しました。

2) ガソリン使用量の削減

実施項目	取り組み結果の評価
社有車の省エネ運転、点検設備の励行	車の駐停車時に、アイドリングストップを行いました。また、公共の交通機関を積極的に使用して、ガソリン使用量の削減にも努めております。

3) 水使用量の削減

実施項目	取り組み結果の評価
車両洗車時の無駄水の防止	車の洗車時には、バケツに水を溜めて節水をしました。以前から行っているなので、継続して取り組みます。
漏水の定期点検使用量のチェック	漏水の定期点検（4月、10月）を行い、パッキンの劣化も調べましたが正常でした。

4) 廃棄物排出量の削減

実施項目	取り組み結果の評価
コピー紙使用量の削減	裏紙の利用を行いました。古い書類はファイルごと処分していましたが、中身をチェックし、裏紙として使用できるものを分別しました。客先への図面送付はメールにて行いました。
廃棄物の分別管理と適正処理	部品業者からの納品時に発生するダンボールは、できるかぎり業者に引き取ってもらい、再利用していただけるよう協力をお願いしています。
盤製作の省配線	配線ルートを最短で引き回し、電線の余りを最小限にします。余ってしまった電線は、被覆を剥がし銅材を業者に買い取りしてもらいました。

5) RoHS 指令適合品の利用促進

実施項目	取り組み結果の評価
RoHS 指令適合品のファイリング・使用・使用比率の把握	RoHS 指令適合品のファイリングを行いました。部品は、鉛および六価クロムを使用しない RoHS 指令適合品を使用し、電線は、燃焼時にハロゲンガスが発生しないエコ電線の使用を促進しています。また、標準品の RoHS 指令適合品比率を算出し、現状を把握しました。

6) グリーン購入促進

実施項目	取り組み結果の評価
グリーン商品の購入・購入比率の把握	社内で使用する事務用品購入金額のグリーン購入比率を算出し現状を把握しました。また、グリーン商品は非グリーン商品より値段が高いため、同等ならば使用します。

7) その他

取り組み結果の評価
盤加工後に変更が出て使用できなくなってしまった筐体は破棄しますが、中板は同寸法の短納期物件があれば対応できるよう保管します。また、全員とはいきませんが、自分の箸やコップ、水筒を持参するものも増えております。

8) 総合評価

2022年度は電力、ガソリン、水使用量、二酸化炭素排出量、グリーン購入促進が未達成でした。電力、ガソリン、水使用量、二酸化炭素排出量、グリーン購入促進については未達成でしたが過去10年と比べて許容範囲であると考えます。

取り組みに問題はなく、引き続き取り組みを継続します。

5. [環境関連法規への違反、訴訟等の有無]

適用法	要求事項	法規 確認日	順守 確認日	順守内容
資源有効利用促進法	・使用物品等及び副産物の発生の抑制ならびに再生資源及び再生部品の利用促進(パソコン)	23/4/11	23/4/14	・図面のペーパーレス化 ・コピー用紙の裏紙使用 ・パソコン廃棄
廃棄物処理法	・廃棄物の適正処理 ・廃棄物の減量、リサイクルの促進 ・横浜市的一般廃棄物及び産業廃棄物収集運搬業許可証、産業廃棄物処分業許可証期限確認 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出	23/4/11	23/4/14	・廃棄物の排出の制御 ・廃棄物の分別化 ・許可証期限確認 ・廃棄物登録内容確認
家電リサイクル法	・家庭用エアコン、各種テレビ、冷蔵庫、洗濯機・乾燥機の家電4品目	23/4/11	23/4/14	・特定家庭用機器の廃棄 (エアコン、テレビ、冷蔵庫等)
RoHS 指令	・鉛および六価クロムを使用しない ・フタル酸エステル類4物質 (DEHP, BBP, DBP, DIBP)を使用しない	23/4/11	23/4/14	・RoHS 指令適合品の使用
フロン排出抑制法	・業務用エアコンの廃棄等において適正にフロンを回収・破壊する ・エアコン簡易点検(1/3ヶ月)	23/4/11	23/4/14	・エアコンの簡易点検
小型家電リサイクル法	・パソコン、携帯、デジカメ等	23/4/11	23/4/14	・ノートパソコン、デジカメの適正な廃棄

環境関連法規の遵守状況を確認した結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘は創業以来ありません。

また、訴訟等も同様にありません。

6. コミュニケーション

当社は、創業以来、近隣とのコミュニケーションは良好に保たれており、苦情等はありません。

7. [代表者による全体の評価と見直し]

評価項目		評価結果	指示事項	指示事項 取組確認	達成度
1.	環境経営方針	2017 年度版への対応	現在の環境方針内容で取り組む。	23/5/26 全社員確認	現状維持の推進
2.	環境経営目標	電力使用量、ガソリン使用量、水使用量、二酸化炭素排出量が目標を達成できなかった。電力、ガソリン、水使用量も過去 10 年と比べても許容範囲。	今後も経済状況が良くなる兆しが見えず、目標達成は困難であるが、来年度の目標を達成すべく、さらなる削減方法を熟慮する。	23/5/26 全社員確認	電力使用量 90% ガソリン使用 料 83% 水使用量 87% 廃棄物排出量 151% 二酸化炭素排 出量 91% RoHS 指令適合 品 101% グリーン購入 76%
3.	環境経営計画	環境経営計画にはない取組みも個々で行うようになり、環境活動の意識が高まっている。	電力使用量の削減に繋がるよう全社員の更なる意識付けを徹底する。 盤の設計・製作作業においても環境負荷削減につながるよう無駄をなくし、効率よく作業する。 電力化石燃料のエネルギーの削減計画を見直す。	23/5/26 全社員確認	
4.	実施体制	現体制で順調に活動できている。	現行通りの体制で活動していく。	23/5/26 全社員確認	現状維持の推進
5.	その他		工場作業員の高齢化が進んでいる為、体調を崩さないよう気を付け作業をする。夏季の工場エアコン使用を控えすぎているので、無理なエコ活動は止める。	23/5/26 全社員確認	2019 年より実施

エコアクションを 2007 年から実践し、環境マネジメントシステムが年々改善され、環境に対する保全意識も高まりました。環境活動も順調に機能しております。しかし、負荷使用量は毎年少しずつ減少していますが、現在の経済状況悪化による仕事量の減少も要因の一つとなっております。

約 10 年間の環境活動でいわゆる「紙、ゴミ、電気」の削減はかなり徹底され、元々大きな環境負荷もないこともあり、削減は伸び悩むものと思われれます。今後は製品の環境志向をレベルアップさせるべく RoHS 指令の徹底を行い、グリーン購入を積極的に推進します。

景気動向が大変厳しい状況ではありますが、社員一丸となって継続的な環境活動を進めていきます。